

大学におけるアントレプレナーシップ教育の実態調査質問票

1. アントレプレナーシップ教育※¹に対する考え方・基本姿勢

※1 アントレプレナーシップ教育（以下「アントレ教育」とします。）とは、起業に限らず、新事業創出や社会課題解決等、新たな価値を生み出す姿勢や発想・能力等（アントレプレナーシップ、起業家精神）を身に着けるための教育（正課外の活動を含む）を意味します。

アントレ教育の実施の有無

貴学におけるアントレ教育の実施の有無についてお教えてください。（単一回答）

- | | |
|---|--|
| A | アントレ教育を自大学で実施している。 |
| B | アントレ教育を自大学で現在実施していないが、今後実施する予定や目途が立っている。 |
| C | アントレ教育を自大学で実施しておらず、今後実施する予定もない。 |

Cを回答した場合は、1.0の質問のみ回答してください。

Bを回答した場合は、1.1～1.4の質問のみ回答してください。

Aを回答した場合は、1.1以降の全ての質問に回答してください。

1.0 アントレ教育を実施する予定がない理由を教えてください。

- | | |
|---|--|
| A | 自大学の提供する教育分野では、学生にアントレ教育を提供する必要がないと考えているため。 |
| B | 必要性は認識しているが他に優先すべき教育内容があり、アントレ教育の優先度が低い。 |
| C | 必要性は認識しているが、リソース（ヒト・モノ・カネ）が不足しており、確保できる見込みがないため。 |
| D | その他（自由記入） |

アントレ教育実施の目的・力を入れている部分について

1.1 貴学がアントレ教育を実施する目的について、最も優先するものを一つ選択してください。（単一回答）

- | | |
|---|--|
| A | アントレプレナーシップを身に着けた人材を定常的に輩出すること |
| B | 大学発ベンチャー創出に寄与する人材を定常的に創出すること |
| C | アントレ教育で得られた知見を研究に活かすこと |
| D | アントレ教育に係る外部からの評価を獲得し、アントレ教育に強い大学として新たな入学者を獲得すること |
| E | 実学や事業化に強い大学として外部からの評価を獲得し、優秀な研究者等を獲得すること |

F その他（自由記入）

1.2 アントレ教育で最も力を入れている部分についてお教えてください。（単一回答）

- A 起業家の育成
- B 幅広い起業家精神の醸成
- C 起業や新規事業創出のための知識やスキルの提供
- D その他（自由記入）

アントレ教育の活動予算

1.3 年間のアントレ教育の活動予算（額・確保の仕方）についてお教え下さい。

【金額】

（この予算は、設備費（試作品の作製に使用する3Dプリンターやその材料・メンテナンス費等）やプログラム開発、講師謝礼、外注費、会場、旅費等を想定しており、雇用している教職員の人件費は含みません。）（単一回答）

- A 0円（正課の授業や学内の従来活動以外に追加の経費等は発生していない）
- B 100万円未満
- C 100万円以上500万円未満
- D 500万円以上2,000万円未満
- E 2000万円以上（可能であれば具体的金額）

【確保の仕方】（最も金額の大きいもの、単一回答）

- A 運営費交付金・経常費補助金や授業料等
- B アントレ教育プログラムの受講料
- C 国からの補助金
- D 自治体からの補助金
- E 企業からの寄付金
- F 企業とのアントレ教育に係る共同研究費
- G その他（自由記入）
- H 予算はない

アントレ教育の成果

1.4 アントレ教育の成果についてお教え下さい。（該当するものすべてに回答）

（成果の対象となる期間：2019年4月～2020年3月とします。）

（アントレ教育の受講者による受講中又は受講後の取り組みのうち、選択肢A「起業件数」は法人化した件数を、選択肢B「事業化件数」は既存企業等が導入した新たなサービス・事業の件数を意味します。）※把握している範囲で記載ください。他大学と共同実施しているプロ

グラムについては、主催しているプログラムについてのみを記載してください。（複数大学が同列で共催している場合は自大学に関連する受講者についてのみ記載してください。）

A	起業件数・携わった人数	()	()	人数
B	事業化件数・携わった人数	()	()	人数
C	アントレ教育受講人数	(学部生○名、院生○名、社会人○名、他大学○名、その他○名)		
D	ピッチ ^{※2} 出場人数	()	人	
E	その他（具体的に記載)		
F	対象期間での成果はない			

※2 主に民間等が実施するピッチやビジネスコンテスト等、広く一般に募集されているものを対象とし、内部で実施する研修プログラムのデモデイなど、単一のアントレ教育プログラムの中で成果発表を目的として実施されるものは除く。

1.5 講義（科目）以外のアントレ教育に関連したイベントやプログラムを教えてください。（複数選択可）

A	アントレ教育に関連したセミナーやシンポジウムを開催	
B	学生向けのビジネスプランコンテスト等を開催	
C	アントレ教育と関連したインターンシップ制度を設置	
D	アントレ教育と連携するインキュベーション施設（創業支援施設）を整備	
E	その他（具体的に記載)
F	イベントやプログラムは実施していない	

取組を行う中で抱えているアントレ教育の課題

1.6 現状のアントレ教育についてどのような課題をお持ちでしょうか。（複数回答可）

A	受講者の裾野拡大（より多くの受講者を獲得する）
B	アントレ教育プログラムの設計・運用
C	アントレ教育を指導する教員の育成
D	アントレ教育を支援する協力者（学内教職員、卒業生、専門家、VC等）の不足
E	アントレ教育を支援する施設（大学内外問わず）の不足
F	資金（プログラム運営資金）の不足
G	その他（自由記述）
H	課題はない

1.7 貴学における全般的なアントレ教育において最も重点的に取組んでいること教えてください。（単一回答）

A	受講者の裾野拡大（より多くの受講者を獲得する）
---	-------------------------

- B プログラムの設計・運用
- C アントレ教育を受講者に対し指導する教員の育成
- D アントレ教育を支援する協力者（学内教員、卒業生、専門家、VC等）の獲得
- E アントレ教育を支援する施設（大学内外を問わない）の整備
- F プログラムを終了した後の実践につながるような接続の取り組み
- G 特になし

2. 裾野拡大に向けた受講者の獲得・惹きつけ

受講者の確保の現状

2.1 受講者を確保するためにどのような取組をされていますか。（複数選択可）

- A アントレ教育に関連する説明会・イベントの企画と運営
- B ポスター・張り紙等の設置によるアントレ教育の周知活動
- C アントレ教育に関連するSNS等の情報発信
- D アントレ教育に関連する授業の履修単位化
- E その他（自由記入）
- F 特に取り組みは行っていない

受講者の確保の課題

2.2 学生の視点から考えた場合、受講者を確保する上ではどのような課題がありますか。課題があると思われるもの上位のものから順に3つを選択してください。（複数選択可）

- A 学生による認知（アントレ教育の存在を知る）
- B 学生への訴求（アントレ教育の魅力を感じる）
- C 学生による調査（アントレ教育に関する追加情報を得る）
- D 学生による行動（アントレ教育を選択し実際に受講をする）
- E 学生による推奨（アントレ教育を友人や他人に勧める）
- F 課題はない

2.3 大学運営の視点から考えた場合、受講者を確保する上で何が最も課題な課題だと認識していますか。（単一回答）

- A 大学にアントレ教育推進の風土がなく、教員の理解を得ることが難しい
- B 受講生を確保するための活動予算が不足している
- C 他業務がある中で、受講者の確保に向けた活動時間および人的リソースの確保ができない
- D 受講生にリーチする適切な手段が分からない
- E そもそもアントレ教育に関心のある学生が少ない
- F 魅力的なアントレ教育プログラムを提供できていない

- | | |
|---|-----------|
| G | その他（自由記入） |
| H | 課題はない |

受講者の確保に対する要望

3. 体系的プログラムの設計と運用

現状のアントレ教育プログラム^{※3}について

※3「アントレ教育プログラム」とは、アントレプレナーシップ（起業家精神：起業に限らず、新事業創出や社会課題解決に向け、新たな価値創造に取り組む姿勢や発想・能力等）の醸成を目的とした教育内容（主に「起業」やベンチャーを題材として、必要な知識習得のための講義、ニーズ発掘やアイデア創出・実現のための手法・実践力獲得のためのアクティブ・ラーニング等）を実施する科目を指します。一方で知的財産権そのものに関する講義や大企業・一般の中小企業を対象とした企業経営論の講義などは対象外とします。また、3日未満のプログラムは除くものとします。

3.1 プログラムの全体像

現在貴学で実施しているアントレ教育プログラムについて以下の項目に回答してください。

※エクセル参照

他大学と共同実施しているプログラムも含めて記載してください。

3.2 現状、自大学で取り組まれているアントレ教育プログラムについて、特徴的だと思われるものについて、5つまで選び記載してください。

※各プログラム分作成していただく想定

項目	回答欄・選択肢案
プログラム名	()
主目的に◎（単一回答）、その他の目的に○（複数選択可）を記載（選択式）	<p>A 入門（狙い：キャリアを考える中で起業という選択肢を知り、身近に感じさせることや、起業以外の方法も含めた起業家精神の涵養を目指す。）</p> <p>B 基礎（狙い：想いを具現化するために必要になるスキルを習得させ、実践に臨めるようにする。）</p> <p>C 応用・実践（狙い：実践的取組み※を通じ、起業家精神の涵養を後押しする。結果として起業に至らずとも起業家精神を習得し新たな価値を創造する教育プログラム。）</p> <p>D 発展（狙い：起業・事業化に向けた準備を支援するプログラム）</p>

全国大学アンケート

	<p>E その他（自由記入）</p> <p>※ビジネスプランを構築するだけのものは含めず、プロトタイピングや顧客ヒアリング等、ビジネスプランを検証するプロセスを含むものとする。</p>
プログラム内容（複数選択可）（選択式）	<p>A 起業家による体験談の講演等の実施</p> <p>B デザイン思考・仮説思考等、思考法の教授</p> <p>C 経営戦略・マーケティング・組織論等、経営に関する知識の教授</p> <p>D ファイナンス・法務・知財等の専門知識の教授</p> <p>E ビジネスプレゼン・交渉スキルの教授</p> <p>F ビジネスプランの作成</p> <p>G ビジネスプランにもとづく仮説検証や顧客ヒアリングの場の提供</p> <p>H その他（自由記入）</p>
受講対象 主な対象に◎（単一選択）、参加可能なものに○（複数選択可）	<p>A 自大学の学部生</p> <p>B 自大学の大学院生・研究員</p> <p>C 他大学の学部生・大学院生・研究員</p> <p>D 社会人</p> <p>E その他</p>
受講生の選定方法、複数の学部、研究科での受講可否（単一回答）	<p>A 全学部ないしは全研究科で受講可能</p> <p>B 一部の学部ないし研究科で受講可能</p>
主担当講師名・所属・職位	<p>氏名</p> <p>所属</p> <p>職位</p>
主担当講師以外の関係する講師（複数選択可）	<p>A 所属する大学の教員</p> <p>B 所属する大学以外の教員</p> <p>C 所属する大学の職員</p> <p>D 大学教員以外のゲスト講師</p> <p>E 大学教員以外のメンター</p>
他大学とのプログラム開発における連携有無（単一回答）	<p>A 有</p> <p>B 無</p>
単位数（単一回答）	<p>A 1 単位</p> <p>B 2 単位</p> <p>C 3 単位</p> <p>D 4 単位</p> <p>E 単位なし</p>

全国大学アンケート

選択・必修の区分 (単一回答)	A 選択科目 B 必修科目 C 該当なし (課外活動)
プログラム提供期間 (単一回答)	A 四半期 B 半期 C 通期 D 集中講義 (3日以上)
授業方法 (複数選択 可) (選択式)	A 講義 B グループワーク C プレゼン D フィールドワーク E プロジェクト形式 F その他 (実証実験等)
運営形式 (複数選択 可)	A オフライン B オンライン (リアルタイム配信) C オンライン (録画配信)
定員 (単一回答)	A 20名未満 B 20以上～50名未満 C 50名以上 D 定員なし E 不明
プログラムの目的 (記 述式)	

プログラムの内容（記述式）	
---------------	--

3.3 今後プログラムを展開するにあたり課題となっていることを教えて下さい。（複数選択可）

<p>A 新たなプログラム案はあるものの、それを指導できる教員がない</p> <p>B 新たなプログラムを展開するための活動予算がない</p> <p>C 新たなプログラムが必要であると考える一方で現実的にプログラムが成立する受講者数が集まらない</p> <p>D 新たなプログラムの策定方法が分からない</p> <p>E その他（自由記入）</p> <p>F 特に課題はない</p>

運営体制について

3.4 現状のアントレ教育を運営している組織の体制について教えて下さい。（複数選択可）

<p>A 各学部・研究科がそれぞれ実施している</p> <p>B 共通教育部門やリカレント教育部門が実施している</p> <p>C 産学連携部門や社会連携部門が実施している</p> <p>D その他（自由記述）</p>

※主でアントレ教育を運営している組織の組織図を添付願います。（既存の組織図がない場合は不要）

令和元年度にアントレ教育に携わっていた教員・職員等の人数を記載してください。

教員	専属 ○名	兼務 ○名	非常勤 ○名
職員	専属 ○名	兼務 ○名	非常勤 ○名
外部招聘者（概数）	○名		
メンター（概数）	○名		

4. 他大学や地域との連携

アントレ教育を実施する上での外部との連携について

4.1 現状のアントレ教育において、どのような外部支援者と連携をしておりますか。下記の選択肢から現在連携している先を選んでください。（複数選択可）

A	専門家（士業者）
B	卒業生（OB/OG）
C	大企業
D	VC
E	銀行
F	スタートアップ支援機関
G	他大学
H	自治体
I	その他（自由記入）

4.2 外部との連携に関して、下表内容の実施の有無、及び下表内容全体の中で重要だと考える上位5項目（未実施の項目も含む）を回答してください

	連携内容	実施の有無 (○・×)	重要だと考える項目5つ
資金面	外部からの教育プログラムの実施に係る資金提供		
	外部からのピッチコンテストの賞金の提供		
	外部からのGAPファンドの提供		
	賛助金・専用基金の設立		
	社会人プログラムの有料化		
	その他の資金提供		
人材面	OB・OG組織の設置		
	メンター組織の設置		
	社会人を対象とした学内教育プログラムへの参画を促す仕組みの設置		
	アントレ教育を企画運営する人材の受入や派遣（人事交流）		
	教育プログラムへの他大学学生の受入・派遣		
機会・場の提供	民間と連携した社会課題テーマの設定		
	自治体と連携した社会課題テーマの設定		
	外部からのインキュベーション施設等の提供		
	民間との教育プログラムの共同実施		
	自治体との教育プログラムの共同実施		
	民間や自治体と連携したピッチコンテストの実施		

全国大学アンケート

	ベンチャー企業へ学生をインターンシップに派遣する 仕組みの設置		
	他大学との教育プログラムの共同実施		
	他大学とコンテンツを共有するプラットフォームの設置		
	他大学との単位互換の実施		
	小・中・高校生を対象とした教育プログラムの実施		

4.3 それぞれの外部支援者に対しどのような役割を期待しますか。(複数選択可)

専門家（士業者）に期待すること

- | |
|---|
| <p>A 企業の事務的な業務や流れの説明</p> <p>B 企業の事務的支援</p> <p>C その他（自由記入）</p> |
|---|

卒業生（OB/OG）に期待すること

- | |
|---|
| <p>A 経験を踏まえた興味関心づくり</p> <p>B 経験を踏まえた企業基礎知識・マインドの補足</p> <p>C 教育プログラムの開発</p> <p>D 起業支援（ハンズオン・メンター）</p> <p>E その他（自由記入）</p> |
|---|

大企業に期待すること

- | |
|--|
| <p>A 現場事例を踏まえた興味関心づくり</p> <p>B 現場を踏まえた実務的なインプットやアドバイスの提供</p> <p>C アントレ教育の共同研究・教育プログラムの開発</p> <p>D 起業支援（ハンズオン・メンター・PoC）</p> <p>E リソース紹介・協力（ヒト・モノ・カネ）</p> <p>F その他（自由記入）</p> |
|--|

VCに期待すること

- | |
|--|
| <p>A 現場を踏まえた実務的なインプットやアドバイスの提供</p> <p>B アントレ教育の共同研究・教育プログラムの開発</p> <p>C 起業支援（ハンズオン・メンター・PoC）</p> <p>D リソース紹介・協力（ヒト・モノ・カネ）</p> <p>E その他（自由記入）</p> |
|--|

スタートアップ支援機関

- | |
|---|
| <p>F 現場を踏まえた実務的なインプットやアドバイスの提供</p> <p>G アントレ教育の共同研究・教育プログラムの開発</p> <p>H アクセラレーションプログラムの提供</p> <p>I 起業支援（ハンズオン・メンター・PoC）</p> |
|---|

- J リソース紹介・協力（ヒト・モノ・カネ）
- K その他（自由記入）

他大学に期待すること

- A 教育ノウハウの共有
- B 学生交流
- C プログラム連携
- D 単位連携
- E 指導教員育成
- F その他（自由記入）

自治体に期待すること

- A 社会課題の提供
- B 地域としての起業支援コミュニティの醸成
- C 起業支援（PoC・社会実装・パイロット顧客）
- D リソース紹介・協力（ヒト・モノ・カネ）
- E その他（自由記入）

4.4 連携を進める上でどのようなことが課題になっていますか。

- A （自由記入）

5. 成果を生み出すための仕組み

成果を生み出すための仕組みの整備状況について

5.1 現状の自大学におけるアントレ教育後も含めた支援等の整備の有無について回答ください。

要素	内容	整備の有無 (○・×)
支援内容		
	アントレプレナーシップに関する学生コミュニティの設置	
	受講生がメンター等で後輩受講生を指導する仕組みの設置	
	受講後のネットワークの提供	
	起業・事業化相談窓口の設置	
	試作設備の設置	
	インキュベーション施設の設置	
	起業時の手続き支援	
	GAP ファンドの提供	
	土業相談の体制整備	

	資金調達支援	
	経営人材と起業テーマのマッチングの機会の設置	
	VC・土業者・協業先・経営人材等の紹介	
	起業時や起業直後を対象としたアクセラレーションプログラム の提供	
	大学発ベンチャー認定制度の運用	
	新株予約権取得の制度整備	
	大学専用ファンド（民間との連携も含む）の設置	

成果を生み出すための仕組み整備に向けた課題

5.2 整備されていない場合は、自大学では何が最も課題となっていますか。（単一回答）

- A 自大学にとって必要な仕組みを企画設計できる人材が不足している
- B アントレ教育後も継続して活動できる場（大学内外の施設）を確保することが難しい
- C 整備のための資金が不足している
- D その他（自由記入）
- E 現時点で整備する必要はないと考えているため、特に課題もない

6. 指導教員の育成

指導教員の育成の現状

6.1 指導教員はどのように育成していますか？（複数選択可）

- A 自大学にて座学を中心とした研修を実施
- B 自大学にて実務を中心とした研修を実施
- C 外部講師を招いて座学を中心とした研修を実施
- D 外部講師を招いて実務を中心とした研修を実施
- E 外部のビジネススクール等への派遣や資金援助
- F 海外大学への派遣
- G 外部からの専門人材を採用して対応している
- H その他（自由記入）
- I 上記どれも実施していない

指導教員の育成の課題

6.2 指導教員の育成における課題は何ですか。（複数選択可）

- A 育成するための資金がない
- B 何をどう育成すればいいか、育成方針が定まっていない
- C 育成の方法は分かるが時間不足で実施できない

学生のアントレプレナーシップ教育の受講に関する調査質問票

(問 1) 初めてアントレプレナーシップ教育に関する学内のプログラムを知ったきっかけを教えてください (単一回答)

【選択肢】

- カリキュラム一覧表/シラバス/ポータルサイト
- 大学からのメール
- 大学内専用情報発信サイト
- 大学発信の SNS
- プログラムポスター/立て看板
- 大学発信以外の SNS
- Youtube
- プログラムに関する新聞記事
- イベント (講演、セミナー、デモデー、ワークショップ等) でのプログラムに関する案内
- 他人の推薦 (先生、友人、先輩等)
- 過去受講生の推薦
- その他(自由記載)

(問 2) 上記のプログラムに関する情報を見た時に、プログラムに魅力を感じましたか (単一回答)

【選択肢】

- とてもそう思う
- ややそう思う
- そう思わない
- 全くそう思わない

(問 3) (2.の質問で「とてもそう思う、ややそう思う」を選択された方にお聞きします) どこに魅力を感じましたか

【自由記載】

(問 4) プログラムを知った後、追加で情報収集しましたか。或いは、情報収集せずに直接応募しましたか (単一回答)

【選択肢】

- 追加で情報を収集した
- 追加で情報を収集せずに直接応募した

(問 5) (4.の質問で「追加で情報を収集した」を選択された方にお聞きします)
追加でどのように情報を収集しましたか (複数回答可)

【選択肢】

- 大学の HP (ポータルサイト等) を見た
- 電話で事務局に問い合わせた
- 研究室や授業の先生に聞いた
- 過去の受講生に聞いた
- 他の学生 (友人、先輩等) に聞いた
- 学校の 口コミ サイトを見た
- その他(自由記載)

(問 6) (4.の質問で「追加で情報を収集した」を選択された方にお聞きします)
上記の情報により、プログラム修了後に自身が身につけている能力・経験や、プログラム修了後の自身の進路について想像することができましたか? (単一回答)

【選択肢】

- とてもそう思う
- ややそう思う
- そう思わない
- 全くそう思わない

(問 7) (4.の質問で「追加で情報を収集した」を選択された方にお聞きします)
情報収集する際に、こういった情報が足りなかったと感じましたか (複数回答可)

【選択肢】

- プログラムの詳細な内容やプログラムを受けるメリットが分からない

- 他のプログラムとの違いが分からない
- プログラムを受けるにあたって必要な時間や労力が分からない
- 実際にプログラムを受けた体験談などの情報が足りない
- その他(自由記載)

(問 8) プログラムに参加した理由はなんですか (複数回答可)

【選択肢】

- プログラムの講師・メンターが有名で、話を聞いてみたい
- 講義のみならず、実践的、体験型の内容もあり、面白そう
- 起業の考えがないが、起業はどういうことか知りたい
- 起業の考えがないが、自分の将来に役立ちそう
- 将来いつかに起業したい直近起業予定があるので、起業関連の知識を身に付きたい
- 起業する予定で、プログラムの受講生の多くが起業したので、参加して役立ちそう
- 起業する予定で、授業を通じて講師・メンターのフィードバックをして頂きたい
- 起業する予定で、プログラムを通じて先輩起業家とのネットワークを作りたい
- 起業する予定で、プログラムを通じて起業仲間を作りたい
- 起業する予定で、プログラムを通じてリソース（お金、人材、製品開発支援等）を獲得したい
- その他(自由記載)

(問 9) プログラムに参加し、どのようなメリットを感じましたか (複数回答可)

【選択肢】

- 新しい考え方が得られ、視野が広げられた
- 起業に必要な知識を獲得できた
- 起業に必要なネットワークを獲得できた
- 起業に必要なリソース（金、人材、製品開発支援等）を獲得できた
- 体験型プログラムを通じて起業に対する理解が深められた
- 体験型プログラムを通じて起業する自信が付けられた
- 体験型プログラムを通じて（講義型より）スキルを身に付いた
- 講師・メンターから有益なフィードバックが得られた
- その他(自由記載)

(問 10) プログラムに参加に対し、どのような点に不満を感じましたか

【自由記載】

(問 11) プログラムを通じて、プログラム参加前に想像した（期待した）成果（能力・経験・ネットワーク）を得る事ができましたか。（単一回答）

【選択肢】

- 想像以上の成果（能力・経験・ネットワーク）が得られた
- 想像していた成果（能力・経験・ネットワーク）が得られた
- 想像していた成果（能力・経験・ネットワーク）とは違う成果が得られた
- 想像していた成果（能力・経験・ネットワーク）は得られなかった
- その他(自由記載)

(問 12) プログラムを通じて、今後の自身の進路やキャリアパスに対する考え方に変化はありましたか。

【選択肢】

- とてもそう思う
- ややそう思う
- そう思わない
- 全くそう思わない

(問 13) プログラムへの応募を友人・先輩・後輩にお薦めしますか（単一回答）
(1 から 5 のいずれかを選んでください)

【選択肢】

- 5 (是非推薦する)
- 4 (推薦する)
- 3 (どちらともいえない)
- 2 (あまり推薦しない)
- 1 (全く推薦しない)

(問 14) 他人に推薦する場合、どのような方法を通じて推薦しますか（複数回答可）

【選択肢】

- 口頭で伝えたい
- SNS で関連の記事をシェアしたい
- SNS でツイートしたい
- ブログ（note/はてな等）を書きたい
- Youtube で発信したい
- その他(自由記載)

(問 15) 今後、プログラムを周囲にお薦めいただくために、制度/仕組みとして改善すべきことはありますか

【自由記載】

(問 16) 大学の起業家教育コンテンツとして、関心があるものは何ですか（複数回答可）

【選択肢】

- 起業家の体験談
- 最新のテクノロジー・スタートアップトレンド
- 起業の理論的知識（ファイナンス、資金調達、知財等）
- 起業の理論的知識（組織論、マーケティング等）
- 起業の実戦プログラム：アイデアの見つけ方（デザイン思考等）
- 起業の実戦プログラム：アイデア検証
- 起業の実戦プログラム：プロダクト開発
- 起業の実戦プログラム：リソース（金、人材、製品開発支援等）の獲得
- 起業の実戦プログラム：チーム形成
- ピッチコンテスト/ビジネスプランコンテスト
- その他（自由記載）

大学発ベンチャーに対する調査質問票

(問 1) 起業に興味を持ったきっかけとアントレプレナーシップ教育の関係について教えてください。(単一回答)

【選択肢】

- アントレプレナーシップ教育の受講により、起業への興味を持ったため
- アントレプレナーシップ教育の受講の有無に関わらず元々起業への興味を持っていたため
- その他(自由記入)

(問 2) 起業する時点までに、身近な環境(学内など)で実施されていたアントレプレナーシップ教育プログラムは受講しましたか?(単一回答)

【選択肢】

- 身近な環境(学内など)で実施されていたプログラムの大半を受講した
- 身近な環境(学内など)で実施されていたプログラムの一部のカリキュラムのみを受講した
- 受講しなかった

(問 3) (1.の質問で「その他」を選択された方にお聞きします)
全く受講しなかった理由は何ですか?(複数回答)

【選択肢】

- SNSや書籍などの公開情報で必要なインプットができたため
- 外部のビジネスコンテストや支援機関を通じ必要なインプットが得られたため
- 魅力的なプログラム内容ではなかったため
- プログラムの存在を知らなかったため
- 身近な環境(学内など)に受講できるプログラムがなかったため
- 学部・大学院等の専門科目で忙しく、受講する余裕がなかったため
- その他(自由記入)

(問 4) (1.の質問で「身近な環境(学内など)で実施されていたプログラムの大半を受講した」、「身近な環境(学内など)で実施されていたプログラムの一部のカリキュラムのみを受講した」を選択された方にお聞きします)
受講した理由は何ですか?

【選択肢】

- 起業に関心があり、知識やスキルを得たかったため
- 起業に向けてのチームのメンバー探しをしたかったため
- 起業に向けての支援を受けられるようなネットワークを得たかったため
- 自身のアイデアを試してみたかったため
- 起業に関心があったわけではないが、内容に興味があったため
- 周りの人に勧められたため
- その他（自由記入）

(問 5) (1.の質問で「身近な環境（学内など）で実施されていたプログラムの大半を受講した」、「身近な環境（学内など）で実施されていたプログラムの一部のカリキュラムのみを受講した」を選択された方にお聞きします)

在学当時受講したプログラムの中で効果的であったプログラムはどのような内容ですか？（複数回答）

【選択肢】

- 起業家による体験談の講演等の実施
- デザイン思考・仮説思考等、思考法の教授
- 経営戦略・マーケティング・組織論等、経営に関する知識の教授
- ファイナンス・法務・知財等の専門知識の教授
- ビジネスプレゼン・交渉スキルの教授
- ビジネスプランの作成
- ビジネスプランにもとづく仮説検証や顧客ヒアリングの場の提供
- その他（自由記入）

(問 6) 起業当時はおどのお立場でしたか？（単一回答）

【選択肢】

- 学生や院生等の学生
- 大学での教員・研究員
- 大学外の企業等組織の所属
- 所属はなかった

(問 7.1) (1.の質問で「身近な環境（学内など）で実施されていたプログラムの大半を受講した」、「身近な環境（学内など）で実施されていたプログラムの一部のカリキュラムのみ

を受講した」を選択された方にお聞きします)

所属当時受講したプログラムの中で(あまり)役にたたなかったプログラムがあるとすればそれはどのような内容ですか？(複数回答)

【選択肢】

- 起業家による体験談の講演等の実施
- デザイン思考・仮説思考等、思考法の教授
- 経営戦略・マーケティング・組織論等、経営に関する知識の教授
- ファイナンス・法務・知財等の専門知識の教授
- ビジネスプレゼン・交渉スキルの教授
- ビジネスプランの作成
- ビジネスプランにもとづく仮説検証や顧客ヒアリングの場の提供
- その他(自由記入)

(問 7.2) その理由について教えてください(複数回答)

【選択肢】

- 一般的なキャリアプラン(就職)の話が多く、起業について知る機会が少なかった
- 提供されている知識やスキルが、実際に起業する際に必要な実践的なものではなかった
- 実際に起業やそれに近い経験をした人による授業やメンタリングを期待したが、多くの授業は、大学教員によるもので、具体的な起業のイメージが持ちづらかった
- インプット中心のプログラムが多く、自分で立てたビジネスプランを検証する機会が少なかった
- 一緒に事業アイデア検討したり、その先の起業に向けたチームメンバーを見つけるような機会が提供されなかった
- 資金面での支援を求めたが、そのようなプログラムが少なく事業化が思うように進まなかった
- その他(自由記入)

(問 8) あなたが所属していた大学や現在関わりのある大学を中心に、一般的に大学における今後のアントレプレナーシップ教育において整備すべきプログラムはどのような内容だと考えますか？(複数回答)

【選択肢】

- 起業家による体験談の講演等の実施

- デザイン思考・仮説思考等、思考法の教授
- 経営戦略・マーケティング・組織論等、経営に関する知識の教授
- ファイナンス・法務・知財等の専門知識の教授
- ビジネスプレゼン・交渉スキルの教授
- ビジネスプランの作成
- ビジネスプランにもとづく仮説検証や顧客ヒアリングの場の提供
- その他（自由記入）

(問 9) 所属していた大学のアントレプレナーシップ教育に関連する課題があるとすればそれはどのようなものですか？（複数回答）

【選択肢】

- 学内にアントレプレナーシップ教育に関心を持つ人が少ない
- 魅力的なプログラムが少ない、もしくはない
- 学内教員から有力なアドバイスを得にくい
- 学内以外の協力者（学内教職員、卒業生、専門家、VC等）が少ない
- 試作品作製や活動場所となる施設（大学内外問わず）が少ない
- ビジネスアイデアを検証する機会や場が少ない
- 起業に向けた支援資金や制度が少ない
- その他（自由記入）
- 課題はない

(問 10) 大学における今後のアントレプレナーシップ教育において、外部のステークホルダーとの連携についてさらなる強化が必要だと考えられていますが、どのようなステークホルダーとの連携が必要だと考えますか？

【選択肢】

- 専門家（士業者）
- 卒業生（OB/OG）
- 大企業
- VC
- 他大学
- 銀行
- スタートアップ支援機関
- 自治体
- 連携の強化は必要ない

(問 11) 10 の質問で回答したそれぞれのステークホルダーに対しどのような役割を期待したいですか？

専門家（士業者）に期待すること（複数回答）

【選択肢】

- 起業の事務的な業務や流れの説明
- 起業の事務的支援
- その他（自由記入）

(問 12) 10 の質問で回答したそれぞれのステークホルダーに対しどのような役割を期待したいですか？

卒業生（OB/OG）に期待すること（複数回答）

【選択肢】

- 経験を踏まえた興味関心づくり
- 経験を踏まえた企業基礎知識・マインドの補足
- 教育プログラムの開発
- 起業支援（ハンズオン・メンター）
- その他（自由記入）

(問 13) 10 の質問で回答したそれぞれのステークホルダーに対しどのような役割を期待したいですか？

大企業に期待すること（複数回答）

【選択肢】

- 現場事例を踏まえた興味関心づくり
- 現場を踏まえた実務的なインプットやアドバイスの提供
- アントレプレナーシップ教育の共同研究・教育プログラムの開発
- 起業支援（ハンズオン・メンター・PoC）
- リソース紹介・協力（ヒト・モノ・カネ）
- その他（自由記入）

(問 14) 10 の質問で回答したそれぞれのステークホルダーに対しどのような役割を期待

したいですか？

VCに期待すること（複数回答）

【選択肢】

- 現場を踏まえた実務的なインプットやアドバイスの提供
- アントレプレナーシップ教育の共同研究・教育プログラムの開発
- 起業支援（ハンズオン・メンター・PoC）
- リソース紹介・協力（ヒト・モノ・カネ）
- その他（自由記入）

（問 15）10 の質問で回答したそれぞれのステークホルダーに対しどのような役割を期待したいですか？

他大学に期待すること（複数回答）

【選択肢】

- 教育ノウハウの共有
- 学生交流
- プログラム連携
- 単位連携
- 指導教員育成
- その他（自由記入）

（問 16）10 の質問で回答したそれぞれのステークホルダーに対しどのような役割を期待したいですか？

自治体に期待すること（複数回答）

【選択肢】

- 社会課題の発信
- 地域としての起業支援コミュニティの醸成
- 起業支援（PoC・社会実装・パイロット顧客）
- リソース紹介・協力（ヒト・モノ・カネ）
- その他（自由記入）

（問17）あなた自身が大学から、アントレプレナーシップ教育への協力を求められた場合、協力したいと思いますか？協力したいと思います場合、どのような協力の仕方が考えられますか？

【選択肢】

- プログラムの受講生に対するメンターとしての協力
- 自身の経験や成功・失敗談を話す機会の提供
- ベンチャー企業で働く経験してもらうため、自社でインターン等で受講生を受け入れる機会の提供
- その他（自由記入）
- 協力はできない

(問 18) 大学では、受講者の拡大に向けて様々な取り組みを展開（もしくは今後予定）していますが、どのような取り組みが最も効果的だと思いますか？（複数回答）

【選択肢】

- アントレプレナーシップ教育に関連する説明会・イベントの企画と運営
- アントレプレナーシップ教育に関連する SNS 等の情報発信
- アントレプレナーシップ教育に関連する授業の履修単位化
- 実施しているプログラムの魅力を高めること
- 提供するプログラムの種類や数を増やすこと
- その他（自由記入）
- 分からない

(問 19) 大学を卒業後も大学で提供されるアントレプレナーシップ教育プログラムに参加したいと思いますか。またどのようなプログラムであれば参加したいと思いますか。（複数回答）

【選択肢】

- 起業家による体験談の講演等
- デザイン思考・仮説思考等、思考法
- 経営戦略・マーケティング・組織論等、経営に関する知識の教授
- ファイナンス・法務・知財等の専門知識の教授
- ビジネスプレゼン・交渉スキルの教授
- ビジネスプランの作成
- ビジネスプランにもとづく仮説検証や顧客ヒアリングの場の提供
- 大学の技術を活用したビジネスを目指すプログラム
- 起業や事業化を目指す多様な人材と出会うことができるプログラム
- 参加したいとは思わない

- その他（自由記述）

(問 20) 大学の取り組みに対しその他ご意見あれば回答をお願いします。（必須回答でなく自由回答）